令和６年度「みえの防災大賞」、「みえの防災特別賞」、「みえの防災奨励賞」

選考理由

「みえの防災大賞」１団体

【四日市市・学校】三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊

令和５年度「みえの防災特別賞」受賞団体

令和４年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊は、約１０年間、毎年９月頃に合同で防災学習を実施してきました。コロナ禍の令和３年度には、地震防災の有識者からのヒアリング等を行い、校外の高台である北勢バイパス近くの公園を校外避難先として設定し、避難目標まで誘導するイメージ動画を作成、コロナ禍で訓練ができない中、工夫した取組を行いました。

令和４年度には、富田地区連合自主防災隊と合同避難訓練を行いました。当日は雷注意報が発表されていたため、生徒と残った地元防災隊員が避難コースの動画を一緒に視聴しました。

令和５年度には、定時制全校生徒と富田地区の高齢者や要支援者役の地域住民を高校生がリアカーや車椅子で校外避難場所まで運ぶなどの本格的な合同避難訓練を行いました。その後、同校ボランティア部が津波災害時に逃げるべき方角を示す「命の矢印」シールを学校周辺の住宅へ配布する取組を行いました。

今年の５月には、昨年度までの高齢者、要支援者に加えて、地元の幼稚園児をリアカーに乗せる合同訓練を行ったほか、「命の矢印」の多言語版を作成し、外国人のための防災セミナーで配布するなど、地域貢献を通じて生徒の自己肯定感を高める活動に発展させています。

高校生が「率先避難者」として、避難経路沿いにいる高齢者や要支援者に対して声掛けをして避難誘導ができる姿をめざして今後の活動も計画しています。こうした取組は東日本大震災で中学生が避難を呼びかけながら高台に逃げたことで、多くの命が救われた「釜石の奇跡」に続く取組であり、地域の防災リーダー的存在として、「命の矢印」を核とした防災活動と訓練に取り組むことで、地域の「防災文化」の構築に寄与することが大いに期待されます。

「みえの防災特別賞」３団体

【多気町・自主防災組織】多気町防災ネットワークグループ

令和５年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

多気町防災ネットワークグループは地域の「防災意識の低さ」を課題に住民主導の防災意識向上に取り組むことを目的に結成されました。地域住民の視点から、誰もが緊急時にスムーズに避難所を開設できることをコンセプトに、社会福祉協議会と協働で「天啓の里・避難所開設マニュアル」を作成しました。

また、多様な主体が地域防災に関わっていく体制を整えることをめざして、住民向けワークショップ「たき防災体験」を開催し、令和５年３月には避難所開設マニュアルをもとに住民参加型でワークショップを実施し、参加者が難しかった点などの感想を話し合いました。令和５年８月には避難経路のシミュレーションや、避難所・仮設住宅での困りごとの解決方法を考えました。

令和６年には協働先を、多気町役場、多気町立勢和中学校、多気町色太地区女性団体にも拡大しました。多気町役場から「各避難所の開設マニュアルを作成するため、天啓の里・避難所開設マニュアルを基本とし、それを使って総合防災訓練を行いたい。」との申し入れがあったことから、多気町の担当者とともに指定避難所である全小学校の避難所開設マニュアルの改訂原案を作成しました。さらに、避難所運営に女性の参画が不可欠であることを伝えることを主目的に総合防災訓練中の避難所開設訓練の一環として「避難所での困りごと」を題材に地域ごとに話し合うワークショップを行いました。

多気町色太地区の女性団体と協働し、「地域再発見防災ウォーク・色太編」を実施したほか、多気町立勢和中学校３年生と協働し、中学生主体の防災ウォークのサポートを行いました。それぞれ、危ないもの、安全な場所、役に立つものを探しつつ、各チェックポイントでは避難所での課題を扱ったクイズ、非常食の試食などを体験するタウンウォッチングを行いました。勢和中学校においては、防災力の向上はもちろん、この取り組みを通じて生徒が大きく成長したこ

とも特筆すべきことです。

今後も、防災ウォークを、他校でも実施しやすいようにプログラム化やカリキュラム化するなど、継続的に地域と一体となった取組を進めている点は他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【伊勢市・自主防災組織】豊西まちづくりの会

令和５年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

豊西まちづくりの会（８自治会）は地域全体の防災活動を発展させるため、活動を開始しました。令和元年には各自治会が避難場所で連携がとれるよう、誰が見てもすぐ理解でき、使えることをコンセプトに「豊西小学校避難所運営マニュアル」の作成を開始し、39 回の会合を重ね、令和６年 10 月に完成しました。

また、豊西地域特有の HUG カードを 252 枚作成し、毎年度初めに、各自治会長役員とまちづくりの会役員を対象に HUG 講習を実施しました。

令和５年度は、豊西 HUG 講習会や夜間避難所開設訓練、延焼防止訓練など継続的に幅広い活動を行っています。また、備蓄食料を購入する財源がない自治会の災害時の食料とするため、休耕農地において、さつま芋の栽培を行い、収穫したさつま芋は廃校舎で保存しています。もみ殻を使用して保存するなどの工夫を行い、テスト的に約半年間保存した結果、腐敗した芋は４個のみであったことから、今後も継続してさつま芋の栽培を行っていく予定です。

令和５年度までは豊西まちづくりの会が１年の「防災計画書」を作成していましたが、令和６年度からは発災時に各自治会長が自分の役割を理解していただくため、防災計画の作成を、自治会が主体となって作成することに変更しました。

また、令和６年度より、豊浜西小学校児童への防災教育を実施し、地域との協働を進めています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【御浜町・学校】三重県立紀南高等学校

令和５年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

三重県立紀南高等学校は令和３年に東日本大震災の被災地で学ぶ「三重県学校防災ボランティア事業」に同校生徒７名が参加し、３泊４日で宮城県を訪れ、津波被災施設の視察や語り部による講話を聞きました。参加した生徒は、児童や先生が震災直後すぐに裏山に避難し、全員が無事だった石巻市立門脇小学校が、震災後どこからでも見やすい大きな津波避難所への案内板を設置したことに着目し、自校の周りには小さな案内板しか設置されていないことに気づき、避難所を示す案内板、ピクトグラム設置をめざすことを目的に活動を開始しました。

令和５年度は、地元企業や道の駅から提供いただいた協賛品で非常持出袋「防災避にゃんセット」を制作・販売し、その収益を案内板の設置費用に充て、町内の施設に津波避難用案内板を２ヶ所設置しました。また、地元の製菓会社と防災食の共同開発に取り組み、ネーミングやパッケージデザインを同校生徒が行いました。

令和６年度は昨年度からのメンバーを一新し、「地域創造学」選択生 13 名が中心となって、同校生徒が安全に津波から避難できるよう、①津波避難マニュアルの見直し、②二次避難場所の選定、③最短避難ルートに横断歩道の設置の要望、④避難場所に防災備蓄倉庫の設置に向けた活動、⑤活動メンバーが企画・運営する津波避難訓練を実施しました。

特に、③最短避難ルートに横断歩道の設置の要望については、避難の最短避難ルート上に横断歩道が設置されるよう全校生徒・教職員に署名を求め、地元警察署に要望するなど高校生目線での取組を進めています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

「みえの防災奨励賞」３団体（団体名五十音順で記載）

【四日市市・自主防災組織】桜地区自主防災協議会　女性防災隊　桜ずきんちゃん

桜地区自主防災協議会　女性防災隊　桜ずきんちゃんは防災活動を「より一層女性視点から取りこぼしのないきめ細かい取組をすること」を目的に平成31年４月に発足しました。

桜地区の住民の防災意識を高めるリーダー役を務めるには、まず自分たちがスキルアップしようとメンバーの７人全員が四日市市防災大学（女性セミナー）を受講し防災士資格を取得しました。積極的な活動を継続した結果、今まで、桜地区自主防災協議会があまり活動を行ってこなかった「地区住民への啓蒙や広報活動」は、企画から実行まで全て桜ずきんちゃんに任されるようになりました。現在は、女性視点と隊員の特技やキャリアを活かし、対象者のニーズに合わせ創意工夫した体験型メニューを作成し、講師は桜ずきんちゃんの隊員７名が交代で行っています。

令和５年度から地元の桜中学校の防災授業（座学と段ボールトイレ組み立ての実演など）、令和６年度からは桜こども園の防災教室（紙芝居・生演奏によるお遊戯・○×クイズ）、桜小学校・桜台小学校の防災授業（座学・実演・クイズ）の講師を担当するなど次世代を担う子供たちの防災意識の向上に取り組んでいます。

令和６年度からは災害弱者支援として、知的障がい者家族団体「四日市市手をつなぐ育成会」と連携し講演会やパッククッキングの講師を務めました。また、多くの住民が集まる地域の行事は絶好の減災啓発の機会と捉え、各地のイベントへ出展し、減災啓発活動を行っています。

他にも、桜地区自主防災協議会が購入する防災物品について、今まで発電機や可搬式消防ポンプなどハードの資機材しか購入されなかったものの、女性視点から意見を出し、女性用生理用品やアレルギー28品目対応食、段ボールトイレなどの購入につなげています。

地方紙やケーブルテレビにも積極的にPRし、メディアを通じた効果的な広報活動を展開しています。地域の防災活動への女性の積極的な参画により、性別による固定的な役割分担の意識に捕らわれない姿は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【四日市市・自主防災組織】羽津地区連合自主防災会

羽津地区連合自主防災会は令和４年度まで連合自主防災会と連合自治会が乖離しており、指揮命令系統がうまく機能しない状況であったことから、令和５年度より連合自治会主導の組織に改編し、強固な組織基盤の整備を行いました。

令和４年度より、これまでのフェス的な防災訓練から「災害時に機能する実践的な防災」をコンセプトに訓練内容を改めました。令和４年度には、少人数でもまた、誰でも設営できるアクションカード形式の避難所運営マニュアルを作成し、同年の地区総合防災訓練でその検証を行いました。令和５年度からは新組織で防災訓練を風水害対応と地震・津波対応に分けて実施しています。風水害対応は図上訓練形式で警戒レベルに応じた判断を行う訓練を実施し、地震・津波対応は実働訓練で想定だけを提示し、シナリオ無しで自助・共助の取組から避難所設営までを実施しています。この取り組みにより訓練において地域に自主的な活動が芽生えてきました。

そのほか、令和元年度から小中学生を対象に「防災サバイバル体験学習」を１泊２日で行っています。令和５年度からは午前中にタウンウォッチングを行い、防災マップを作成するなど取組を進めています。さらに「楽しみながら防災を学ぶ」をコンセプトに活動を続けており、令和６年度は各種団体の協力を得て、バケツリレー、水消火器、毛布搬送を実施し、翌日に防災ボードゲーム、非常持ち出し袋作成を行いました。受身的な講義中心の研修から自発的に動き、考える研修に改善し参加者も年々増加しています。この「防災サバイバル体験学習」ではまちづくりの人材育成を兼ねて外国人を含む学生ボランティアが活躍しています。学生ボランティアの中には中学生時代に本事業に参加した方が再度ボランティアとして参加するなど人材循環が構築されています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【南伊勢町・ボランティア】南伊勢町災害ボランティアコーディネーター連絡会

南伊勢町災害ボランティアコーディネーター連絡会は南海トラフ地震などの大規模災害に備え、平成28年10月に結成されました。

被災時には、支援を必要とする被災者のニーズとボランティアをつなげるパイプ役として、災害ボランティアセンター運営スタッフ及びボランティアとしての役割を担い、居住地域の被災状況等の情報提供が行える強みがあり、行政、社協と共に災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練も開催し、スキルアップを行っています。

また、平時からも、高齢化率県下一の南伊勢町で、高齢者を主とした防災の啓発・情報発信などを行い、地域の防災意識を高めるための活動を行っています。災害時に自分の足で逃げられるよう心身の健康維持・増進を図ることを目的とした「えるがあ教室」や、介護予防や交流を目的とした「地域ふれあいサロン」などへメンバーが出向き「防災勉強会」を開催しています。

「えるがあ教室」は、平成30年度から、現在、町内１３地区で年２回ずつ開催し、また「地域ふれあいサロン」は令和４年度から、現在、町内８地区で年２回ずつ開催しており、「防災勉強会」は７年間で、合計164回実施しています。毎回テーマを変えて、住民のみなさんの関心が高いと思われるものを分かりやすく学んでいただいています。

また、令和２年度から、南伊勢高校と連携し、毎年、高校生と一緒に津波一時避難所までをタウンウォッチングを行い、防災マップを作成するなど南伊勢町の次世代を担う子どもたちの育成にも取組を進めています。

そのほか、行政と連携し、災害廃棄物初動対応図上訓練等に取り組むとともに、住民が常に防災を身近に感じられるよう、手作りの防災啓発資料を役場の玄関ロビーに掲示する取組も行っています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。